関東地区学生生活連絡協議会

生連協だより

2015.9

vol.95

発行 〒259-1292　神奈川県平塚市北金目 4-1-1　会長校：東海大学　TEL：0463-58-1211

編集担当 桜美林大学・国際武道大学・国士舘大学・二松學舎大学　　印刷 株式会社 エムディーエス

関東地区学生生活連絡協議会 新会長挨拶
～社会で生き抜く力を育てる～

東海大学 教学部長 内山　秀一

今年度、会長校を仰せつかりました東海大学で教学部長を務めております内山秀一と申します。

まず、本協議会が50周年を迎えられますことに対し、心よりお祝い申し上げます。この協議会は、前身である「東京地区学生アルバイト対策協議会」発足当時から、各大学が連携して学生への支援やさまざまな活動への対応をなさってきたとお聞きしています。そして、18歳人口が減少し、大学間の競争が激化する現在にあっても、より良い学生支援を目指し、情報を共有し活動していらっしゃる関係各位の志とご尽力に対し、心より敬意を表する次第でございます。今年度、会長校として協議会の運営を担当させていただくことは、私どもにとりましては重責ではありますが、学生支援の質を向上させることのできる機会と捉え、この会がますます発展していくよう努力していく所存であります。皆様方におかれましては、是非ともお力添えいただきますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、「社会の変化に伴って多様化した」と言われる学生の価値観や行動は、それぞれの学生が生きてきた中で育まれたものであり、大学での教育や経験によって容易に変えられるものではないかもしれません。しかし、学生たちには、学生生活を安全に楽しく過ごすとともに、厳しい社会を生き抜くための力を養ってほしいと思います。

最近の大学生は「真面目」「素直」「従順」「優しい」と言われる一方で、「低年齢化している」とも言われます。これには、少子化が進む中、学生たちが家族や学校、社会に手厚く守られて成長してきたことが関係しているのではないかと考えています。人が成長していくのには、それぞれの年代に適した親の接し方があると言われます。生まれたばかりの赤ちゃんは、自分では何もできませんから、親は赤ちゃんの様子を察し、その欲求のすべてを満たしてあげなくてはなりません。児童期には、よく目を行き届かせ、さまざまや危険や障害から守り、誤った考え方や行動を修正してやらなくてはなりません。青年期には、自分自身で問題を解決できるように遠くから見守るのが望ましいとされています。さらに、子どもが成長しようとしている時に、あるいは十分成長しているのに、低い年代に対するような接し方をすることは成長を止めてしまうと言われます。

このことが、学生支援のあり方について、ひとつの側面を明確に示していると思います。現在、各大学には、より良い学修環境はもとより、手厚い学生支援やサービスが求められています。それに応えるべく、教職員は、学生の学修状況のほか、家族の状況、友人関係や恋愛などの人間関係、サークルやアルバイトといった学内外での活動に至るまで、学生の生活面全般を把握し、情報を共有しようという動きもあります。そして、少しでも変わった兆候が見られたならば、すぐに声をかけ、手を差し伸べて軌道修正させることも少なくないようです。このように、大学が学生をすべて抱え込む形で面倒を見れば保護者は安心し、良い評価を得られるのかも知れません。しかし、学生たちは、大学を卒業し、厳しい社会を自力で生き抜いていかなくてはなりません。現代社会は、受け身で内向的な若者にやさしい社会ではありません。若年層の非正規雇用やブラック企業、ブラックバイトなどと言われるように、従順な若者を不当に扱い、使い捨てる社会でもあります。

したがって、学生は、学生生活全般から幅広く学び、自分で考え、判断して、社会を生き抜くたくましさを身に付ける必要があります。教職員は、必要な支援を行いながら、学生が自立できるように、遠くから成長を見守り、最後は自力で問題を解決できるように導くための方法を見出しておくことが必要であると思います。しかし、その方法やタイミング、バランスなどは、個別対応を含めて非常に難しい状況であることも実感しております。私自身、この協議会を通して、学生支援に対する情報を共有し、単なる問題解決策の提示ではない学生支援のあり方を模索してみたいと思います。皆様方におかれましては、ご指導、ご鞭撻の程、何卒、よろしくお願い申し上げます。

第50回 通常総会開催

2015. 5. 22 fri

東海大学湘南校舎松前記念館講堂

平成27年度 三役校決定! 会長校 東海大学 副会長校 神奈川大学・神奈川工科大学

平成27年5月22日(金)、東海大学湘南校舎・松前記念館講堂において、第50回通常総会並びに平成27年度第1回(通算106回)講演会を開催した。

会場校東海大学 大学運営本部長 内田　晴久氏の挨拶の後、議長に神奈川大学 学生生活支援部事務部次長 古川　昌博氏、書記に国際武道大学 学生課長 石原　達朗氏と二松學舍大学 学生支援課長 小西　明徳氏が選出された。

議事に先立ち、関東地区学生生活連絡協議会規約第12条7項に記されている通り、総会には会員の3分の2以上の出席(委任状を含む)が必要であるが、本会は出席35大学、委任状44大学、合計79大学により、会員総数83大学に対して3分の2を満たしていることから、総会が成立している旨説明が添えられた。

第1号議案　平成26年度事業報告について

会長校神奈川工科大学 学生支援本部学生担当部長 鈴木　隆氏より、原案について資料のとおり説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第2号議案　平成26年度決算報告について

会長校神奈川工科大学 学生支援本部学生担当部長 鈴木　隆氏より、原案について資料のとおり説明があり、続いて拓殖大学八王子学生生活課長 中洞　三雄氏より会計監査報告がなされた。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第3号議案　平成27年度役員校並びに顧問の選出(案)について

新会長校東海大学 教学部次長 染谷　宏氏より、原案について資料のとおり説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第4号議案　平成27年度事業計画(案)について

新会長校東海大学 教学部次長 染谷　宏氏より、原案について資料のとおり説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第5号議案　平成27年度予算(案)について

新会長校東海大学 教学部次長 染谷　宏氏より、原案について資料のとおり説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

以上、議事は滞りなく進行し、無事終了した。

議事終了後、平成27年度常任委員並びに役割分担の紹介がなされた。

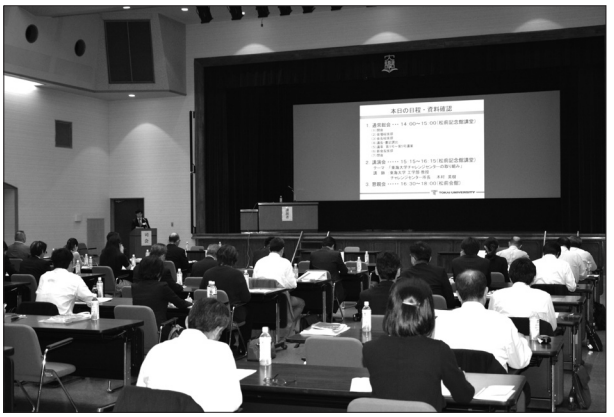
引き続き、新会長校東海大学 教学部長　内山　秀一氏より、新任挨拶がなされた。

総会閉会後、休憩を挟み、同会場において平成27年度第1回講演会を開催し、講師 東海大学チャレンジセンター所長 木村　英樹氏による東海大学が目指す人材育成と特色ある取り組みについて聴講した。

講演会終了後、会場を松前会館に移し、懇親会を行った。

新会長校東海大学 教学部長 内山　秀一氏の挨拶、前会長校神奈川工科大学 学生部長 藤村　陽氏による乾杯があり、以後親睦が深められた。

神奈川大学 学生生活支援部事務部次長 古川　昌博氏の挨拶後、閉会した。



講演会Report

第1回 講演会レポート (通算106回)

▶講　師　東海大学 工学部 電気電子工学科 教授・東海大学 チャレンジセンター 所長 木村　英樹氏

▶テーマ　「東海大学チャレンジセンターの取組み」

東海大学が掲げる人材育成の4つの注力ポイント、「自ら考える力」、「集い力」、「挑み力」、「成し遂げ力」を学生自身が育むため、地域連携、国際交流、震災復興、ものつくり、ボランティアなど、多岐にわたるプロジェクト活動を支援している様子について1時間程講演いただいた。

中でも東海大学ソーラーカー開発については、その歴史、効果、今後の展開などまで、熱く語っていただいた。

東海大学チャレンジセンターの活動には、多くの聴講者から関心が寄せられ、講演後の質疑応答も活発であった。

(活動の詳細は、次ページ「特色ある取り組み紹介」に特集記事として掲載。)

特色ある取り組み紹介

Tokai University 東海大学

チャレンジセンターの取り組みとソーラーカーの活動

東海大学 チャレンジセンター所長・工学部教授 木村　英樹

核家族化や少子化、ゲーム機等の普及による遊びの変化などによって、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力が不足している学生は多いとされている。日本経済団体連合会の「新卒採用に関するアンケート調査結果」においても、コミュニケーション能力・主体性・協調性・チャレンジ精神を有する学生への期待が高い。このような時代の要請を受けて東海大学は、常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求する力=「自ら考える力」、多様な人々の力を結集する力=「集い力」、困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力=「挑み力」、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力=「成し遂げ力」を大学が育むべき“4つの力”として策定した。そのきっかけとなったのが、2006年4月のチャレンジセンター設置である。本センターは同年の文部科学省による現代GPの採択を受け、大学による社会的責任=USR活動を展開し、課題を解決することを目的に含めた「チャレンジプロジェクト」を展開している。2015年度は地域活性・国際交流・ものつくり・ボランティアなどの分野で、22件が活動を推進している。これらは、原則として50名以上を集めることが成立要件であり、企画を立案し、成し遂げていくものである。すべてのプロジェクトにはコーディネーター(主に職員)とアドバイザー(主に教員)が全てに配置され、教職協働で支援を行う。コーディネーターには事務研修や能力研修が課せられており、学生のモチベーションを高めることなどを目的として、コーチングなどの手法を学んでおり、事務職員のSD研修としても位置づけられている。アドバイザーは、専門的な立場からの助言を学生に与え、活動を補助する支援金(上限200万円、特別申請により最高1000万円)が用意される。これらのプロジェクトに参加する学生は、年間を通じた活動報告書を提出するとともに、一部の学生には4つの力についてルーブリックを活用した自己評価を実施している。さらに、新しいシーズを得るために10名以上から企画できる「ユニークプロジェクト」も用意されている。これらの活動を活性化させるために、グループワーク・アクションラーニングなどの手法を採り入れたアクティブラーニングを中心とした独自のチャレンジセンター科目が開講されている。

▲チャレンジセンターの2014年度活動報告会で発表する学生たち。

チャレンジセンターのプロジェクト活動の中に筆者がアドバイザーとして関わっている「ライトパワープロジェクト」があり、「ソーラーカーチーム」「電気自動車チーム」「人力飛行機チーム」の3チームが活動を行っている。これらは、「太陽光や人力などの少ないパワーで、人が乗って動く軽量な乗り物を創る」という点で共通しており、「多様なスキルを持った多くの学生が揃ってはじめて実現できる」ものばかりである。チャレンジセンターものつくり館を活動場所とし、そこには技術職員が入ることで技術指導や安全指導を行っている。ソーラーカーについては、パナソニック、東レ、ブリヂストン、ミツバなどの国内メーカーや、学内の研究グループなどとともに産学連携で開発・運営が行われ、まさに日本代表として国際大会に出場している。これまでの優勝経験などが高く評価され、米国国務長官、アブダビ皇太子といった要人との対話なども実現し、海外展示会の企業ブースや日本ブースでの展示も経験している。また、国際石油開発帝石が支援するアブダビ石油大学とのソーラーカー共同開発も成功させ、初参戦ながら国際大会で準優勝することに貢献した。自治体との提携事業などで、エコカー教室やものつくり教室を開催し、まさにグローバルからローカルにわたってUSR活動を牽引してきた。2015年10月18日、オーストラリア大陸3,000kmを縦断する世界最高峰のワールド・ソーラー・チャレンジが始まるので、ご声援をお願いしたい。

◀オーストラリア国際大会で走る、東海大学のソーラーカー。この大会で準優勝した。

▶オーストラリア国際大会の表彰式の様子。学生たちの喜びが炸裂した。

平成26年度関東地区学生生活連絡協議会会長校の任期を終えて

神奈川工科大学 基礎・教養教育センター教授 藤村　陽

平成26年度、関東地区学生生活連絡協議会（以下、生連協）の会長校を務めさせていただきました。この1年間、4回の講演会をはじめ、夏期合同研修会、留学生担当者研修会を多くの方々の参加をもって、大変充実したかたちで開催することができました。また50周年記念事業の準備も着々と進められております。これも、ひとえに副会長校をお務めいただいた東海大学様と杏林大学様、常任委員校の皆さま、そして会員校の皆さまのご理解とお力添えの賜物であります。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本年は顧問として、微力ながらお役に立てればと存じます。

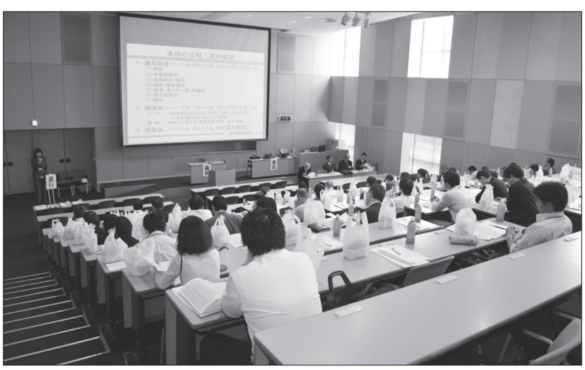
この1年の講演会のテーマは、SNSの安全な利用、トラブル・クレーマー対策、障害者差別解消法への対応の考え方ならびに学生支援の実践報告と、今後の学生支援にあたって有益なものを多く得ることができました。夏期合同研修会では、学生支援の諸問題についての分科会での活発な議論と共に、参加大学間の情報共有も活発に行われました。参加者個人間では同世代の仲間の輪が広がり、その上で世代間の交流が進んでいました。

現在、学生支援の現場で求められるニーズや出来事は多様化し、過去に経験の少ない事例にも直面します。的確な学生支援を行うには、他大学の取り組みや事例を知ることが大変有益なものとなっています。生連協は、会員校の皆さまの貴重な情報共有の場であり、大学間の連携を深める場として、長年にわたり機能してきました。本学もまた、生連協の場で得た情報を活用し、学生支援業務をさらに充実させることができました。

生連協の会員校は、日本のボリュームゾーンともいえる人材を輩出する教育機関であり、日本の社会を共に支える仲間として、手を携えていくことは意義深いものがあります。また若者たちが社会に出ていく前に接する「働く大人」である私たちが、日々の業務でくたびれた存在とならないためにも、リフレッシュや刺激を得る場として、生連協は大切な存在であり続けねばなりません。

本年、50周年を迎える生連協の今後の益々の発展と、会員校各大学における学生支援業務の発展を心よりお祈りしています。

▶夏期合同研修会の様子



◀通常総会の様子

◀11月研修会後の懇親会

留学生部会「留学生担当者研修会」報告

昨年度に引き続き、関東地区学生生活連絡協議会が主催する（千葉県私立大学学生支援研究協議会・神奈川県学生生活協議会連携）取次申請者資格取得研修を含む留学生担当者研修会を、次のとおり開催いたしました。

研修会においては、法務省東京入国管理局からお招きした3名の審査官から、取次申請に関する事項及び最近の留学生の出入国・在留審査状況等について、情報を提供していただきました。

留学生担当者研修会の開催

▶日　時　平成27年7月17日（金）13:00～17:00

▶場　所　東京都市大学 世田谷キャンパス 1号館1BN教室

内容：

①挨拶　会長校 東海大学教学部長　内山　秀一氏

②「出入国管理行政の概要について」
　就労審査部門 統括審査官 森田　恭子氏

③「出入国審査・在留審査業務について」
　留学審査部門 統括審査官 上野　義則氏

④「申請取次制度について」
　留学審査部門 首席審査官 小田切　弘明氏

⑤情報交換会